

《 分 科 会 報 告 》

第1分科会

「学校、家庭、地域社会の連携を担うPTA活動の在り方」

—地域で育つ高松っ子の育成を目指して—

発表者 鹿嶋市立高松小学校 PTA会長 宮崎 美樹
鹿嶋市立高松中学校 PTA会長 野口 裕之
助言者 行方市立玉造中学校 校長 山野 稔

(提案発表の骨子) ①本部役員について ②行事について

- ① 本部役員については、役員選出や役員会について検討をすすめているところである。
- ② 行事については、状況にもよるが、小中学校の内容の異なる事業を同日開催、または合同で開催している。文化祭は一部合同で実施した。コロナ禍においても、運動会など工夫をしながら事業を行っている。

(助言指導)

- ・役員選出については、本部役員を少数制にし、会則を変えるなど仕組みづくりを行っていくと良いのではないかと。
- ・施設一体型の小中一貫校として進めていくために、PTA活動の整備が進められているが、活力のあるPTA組織である。



第2分科会

「学校、家庭、地域社会と連携したPTA活動」

発表者 神栖市立神栖第四中学校 PTA会長 飯塚 大輔
助言者 鹿嶋市立平井中学校 校長 細川 嘉彦

(提案発表の骨子) ①家庭、地域との連携・協働 ②課題

- ・生徒主体の地域ボランティア活動をすすめている。また、保護者・地域交流・連携・協働の形として震災の年に始まった「復興支援プロジェクト」から始まった、神栖四中学区関連の幼稚園、小学校・高校が集まり、合唱発表や物品販売などの収益を被災地へ支援金として提供する「絆プロジェクト」を進めている。
- ・神栖四中学区地域コミュニティーは発足10年。県教育会より教育功労団体表彰受賞。



(助言指導)

- ・学校とPTAと地域を結ぶ活動が、子どもの健やかな育成のためのかげはしとなっている。意図的に思いを持って活動している様子が伝わってきた。
- ・役員については、踏襲にこだわらない選出方法も必要。
コロナ禍だからこそ変化に対応できるチャンスでもある。

第3分科会

「コロナ禍で子どもたちにできること」

発表者 潮来市立日の出中学校 PTA会長 兼原 儀弥
助言者 銚田市立銚田北中学校 校長 中澤 浩

(提案発表の骨子) ①はじめに ②日の出スタンダード③PTA組織 ④特別講演会 ⑤校内レガッタ

「やらない理由を探す」のではなく、「今、何がやれるか」という意識でPTA活動をすすめている。

・日の出小・日の出中の9年間の学びを通して一貫した教育活動推進のために、学習、学習用具、家庭学習、体育、生活などにスタンダードがあり「日の出スタンダード」として策定されている。

・PTA諸行事が縮小・中止される中、「子どもたちが楽しめること」をコンセプトに「笑いでコロナを吹き飛ばせ」をテーマに、令和2年度は東京ホテイゾン、3年度はU字工事を講師として講演会を開催して児童生徒・教員・保護者ともに楽しんだ。

・地域や大学、高校、県ボート協会等の協力を得て開催された校内レガッタは、地域に根ざした行事であり、4年ぶりということもあり関係者の笑顔が印象的であった。

(助言指導) ・コロナ禍の影響は、視力低下や学習意欲低下、

不登校・長期欠席などとして現れている。

・特別講演会は笑顔・夢があり、思いの実現として素晴らしい。

・校内レガッタは、地域の特性を生かした素晴らしい行事である。



第4分科会

「学校、家庭、地域社会の連携を担うPTA活動の在り方」

—青少年に豊かな人間性を培うために—

発表者 銚田市立旭西小学校 PTA会長 中田 大介

助言者 神栖市立神栖第一中学校 校長 中田 信二

(提案発表の骨子) ①旭西小PTAの概要 ②児童の健康・安全確保

③よりよい教育を確保する活動

旭西小PTAは、～すべては子どもたちのために～を合い言葉に活動をすすめている。

・健康・安全確保事業・・・立哨活動、親子登校、安全活動日などを設定し活動している、

・よりよい教育確保事業・・・栽培活動、ふれあい学習(地域高齢者による昔遊びやよみきかせ)

保護者読み聞かせ(お日さまの会)

・その他・・・地域の特色を生かした活動 「やさしくかしこく たくましい 旭西っ子の育成」

情報モラル教室開催 奉仕作業 スポーツフェスティバル・サマーキャンプ等運営協力

(助言指導)

・コンセプトが根付いた活動をしていて、保護者・地域の学校への思いが引き継がれ、時代変化に応じた活動がされている。R8の学校統合にあっては、旭西小PTAの伝統を継承しつつ、他校との融和により更に素晴らしいPTA組織の創出に期待します。



第5分科会

「学校・家庭の連携を強める北浦小学校PTA活動の推進」

～地域の特色を生かした協同的な取組を通して～

発表者 行方市立北浦小学校 PTA会長 高田 典之

助言者 潮来市立潮来第二中学校 校長 根本政世士

(提案発表の骨子) ①はじめに ②組織 ③活動

- ・旧3地区の小学校統合による開校7年目の小学校である。
- ・令和3年、PTA組織のスリム化を図る。
- ・地域の特色を生かしたPTA活動・・・鹿島アントラーズCRO・中田浩二氏講演会 開催
- ・学校環境整備・・・年2回の除草奉仕作業（安全環境委員会）
- ・学校行事協力・・・運動会や持久走大会運営協力（体育委員会）、
読み聞かせ（図書委員会） 農業体験活動（地域人材活用）

(助言指導)

- ・学校と保護者が地域の特色を理解し、子どもたちの成長に生かしていこうとする協同的な取組みが見られた。
- ・地域人材の活用や学校ボランティアなど、PTA会長を中心に様々な面から学校の教育活動を支えている姿勢がある。



第6分科会

「農業と食育」

～「食」から子どもたちの未来をサポートする～

講師：飯田 等 氏（株）agri new winds 代表取締役



神栖市でピーマン農家をしながら起業をした飯田等氏を講師に迎えて講話をいただきました。茨城県は生産量日本一の野菜が多く、神栖市でも多くの野菜が生産されており、食育体験として一般の方だけでなく地元の小学生を招待し、ピーマンやじゃがいもの収穫体験の後、収穫した野菜でカレーを作るなど学校給食に貢献しているということでした。

農業（収穫）体験をすることは食育の一環であり、地域の大人として子どもたちとの関わり方を話していただきました。

講話の後、飯田講師のお話をもととしたグループディスカッションでは活発に意見交換がされ、子どもに農業体験をさせたいという意見や、収穫した野菜がどのように流通していくのかを子どもに伝えて欲しいなどの感想が出ました。



県東P連女ネット（子ネット）委員長 神馬みづき

第7分科会

県P連会長・畠山佳樹氏の全体会講話「学校の働き方改革とPTAの関わり」を基に協議

参加者は各小中学校の教頭先生を始め諸先生方とPTA役員約40名。

本協議を通じて先生方が普段胸に秘めている生の声を聴くことができました。多くの先生方が、働き方改革における教職員の勤務時間について保護者がどのように受け止めているかということに気がされていました。勤務時間を基本どおりにする（従来と比較すると短時間になる）ことを

- ・保護者に理解してもらえるのか
- ・生徒の悩みに向き合う時間を作れるのか

など、様々な不安を抱いている先生方が多く見受けられ、定められた勤務時間内で勤務することは国から定められた指針であり当然のことではありますが、保護者の理解がすすむには相当の期間を要するのではないかと懸念しているようでした。

これに関しては、我々PTAが積極的に情報発信を行い、先生方の不安を解消する一助を担う必要があると感じるとともに、P（parent）とT（teacher）が密接に連携することによって、先生方が働きやすい職場環境が醸成され、ひいては子どもたちの明るい未来につながるのではないかと感じました。



（行方市P連会長 大貫 大輔）